

市民の意志を第一に。

(2025年第2号)



戸田市議会議員
酒井いくろう

JR沿線の荒地 有効活用を！

埼京線沿線の両側に「環境空間」と呼ばれる土地が広がっています。そのうちかなりの部分は、空き地、荒地となっており、時に背丈をしのぐ高さの草が生えるなど、市民の方から苦情を頂くこともあります。線路沿いの細長い土地は道路によるアプローチがしづらく、利用が難しくなるなど、活用は困難であると思います。



埼京線沿線は活用が進まず、荒地が広がる

なぜ、このような土地が存在するのですが、埼京線開通の際に、両側に20メートルずつ確保された騒音、振動、日照等の公害、高架構造物による都市環境の悪化を防止するための緩衝地帯として設けられました。その活用について、厳しい制限が設けられたため、荒地として放置されることになりました。現状を見れば、広大な土地の活用方法として失敗だったことは明白です。

今回、「環境空間」の活用を図るため、その用途についての「合意書」の改定が、戸田市とJR東日本の間で協議されています。その目的は、利用制限を緩和し、住宅や店舗として使用しやすくすることや、それに伴い環境整備を進めることなどです。私、酒井は環境空間の整備と有効活用に賛成しています。しかしながら、一たび開発されれば百年単位で利用が固定されることから、次のような提案をしています。

1. 線路に沿った「側道」として車道を整備し、袋小路を避けるとともに高架下の有効活用もうながすこと。例えば、都内の中央線のように高架下を店舗や飲食店として活用し、周辺住民が利用できるよう促すべきです。そのためには、現在のような歩道の側道では活用しづらく、より道幅の広い車道の整備が必要条件になります。

2. JR側と戸田市が設計段階や費用負担などで共同し、より良いまちづくりを行うこと。

現状の「合意書」改定案は、JR側が計画を申請し、戸田市側が認可する、という無機質なものです。そうではなく、例えばJR側が「環境空間」内の側道整備を行い、戸田市側が接続する道路の整備を行うことで、道路設計は改善され、街の価値も向上が図れます。

本年2月19日に開催された周辺住民向け説明会において、酒井からJR側へ上記2点の提案をしたところ、「戸田市と情報共有し、前向きに検討したい」との回答がありました。今後は戸田市へ対応を促していきます。

酒井いくろう 1975年3月4日生まれ。無所属(4期16年)。会派「戸田の会」代表(12年)【学歴】東京大学医学部卒業、同大学院修了(医療政策)【職歴】マッキンゼー(経営コンサルタント)、㈱ポピーズ(保育・幼児教育)、医学教育事業。2009年より戸田市議会議員【家族】妻、子3人。22年国会議員秘書(国家資格)、23年保育士(国家資格) ※初選挙より選挙カーを使わず政策本位で活動中。

酒井いくろう【Eメール】ikuro.sakai@gmail.com
〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1 戸田の会
TEL/FAX:048-432-9168

質の高い議員活動のためには、皆様からのご意見が必要です。
どのようなことでもぜひご一報下さい。



チラシ内容の詳細は
こちらです
↓↓↓
酒井郁郎ウェブページ
sakai-ikuro.com